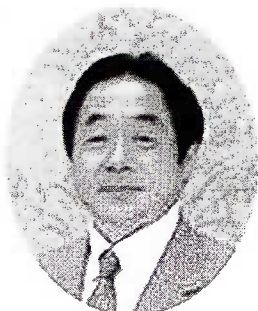


学生リーグ戦の思い出



駒澤大学空手道部第20代主将
社団法人 日本空手協会大学 OB 連合会

副会長 **小松原 英雄**

原稿依頼があったとき、ふと学生時代の頃を思い出した。私が駒澤大学空手道部に入部したのが昭和40年であり、当時空手ブームもあってか、200数十名が入部した。道場に入りきれず、1年生は駒沢公園の駐車場で稽古していた。素足のため、足裏から出血し、その痛さに根をあげていたのを今もって忘れない。

最後まで残った同期は17名。40数年経った今も親交を深め、よき青春時代を過ごせたと思っている。

さて、学生リーグ戦であるが、現在のように1～3部という区分けはなく、出場校が同じ土俵で試合をしていた。女子の試合はなかった。ただ、当時も女子の入部希望者がなかった訳ではない。いつ頃から女子の試合が始まったのか、今もって思い出せない。当時、学生リーグ戦も年1回、秋季リーグ戦のみが行われていたように記憶している。昭和42年12月3日、第14回秋季リーグ戦が母校駒澤大学体育館で行われた。会場が駒澤大学とあって、体育会の仲間が大勢応援に来てくれた。

新幹部になって最初の試合でもあり、優勝してはずみをつけたかったのであるが、結果は準優勝に終わった。私自身最優秀選手に選ばれたが、残念な気持ちの方が強かった。というのも、その半年前の昭和42年6月11日、第10回全国空手道選手権大会団体組手の部において優勝。私自身6戦全勝で、優勝に大きく貢献できたという自負もあり、準優勝という結果に納得がいかなかったのである。

今にして思うと、学生リーグ戦の目的が、青少年の健全育成・体育向上・学生間の友好親善・技術の向上等にあることを考えると、あまりにも勝負にこだわり過ぎていた学生時代だったかなと思う次第である。

ただ、この学生リーグ戦を通じて、他大学の空手道部員と交流が深まったのも紛れもない事実である。現在大学OB連合会の役員として、空手に携わっているが、このような礎を築いてくれた駒澤大学空手道部・日本空手協会に感謝の気持ちでいっぱいです。今後も日本空手協会・大学OB連合会発展のため頑張っていく所存です。

本大会の益々の御発展を心よりお祈りいたします。